

2021.4.3

高崎陸軍墓地の 歴史的背景紹介

歴史家・今井さん出版



木田 歴史家の今井昭彦さん(65)「近代日本と高崎陸軍埋葬地」(御茶の水書房刊)を出版した。写真。草広寺(高崎市若松町)にある高崎陸軍墓地の歴史的背景を日本の埋葬文化などに触れながら紹介している。

本作は、1年前に専門家向けに出版した「近代群馬と戦没者慰霊」(同書房刊)を、「一般の人にも読んでほしい」という願いから一部を抜粋して分かりやすくリライトした。

同墓地には、出征した兵士が多く葬られていると考えられていたが、実際は訓練中に病気などで亡くなった兵士がほとんどだった。

現代では、戦没者の無縁化が進んでおり、「地元で起きた事実を残すことが、戦没者を忘れないことになる」と話す。

また、戦没者は「慰霊」される立場から、国家が栄誉としてたたえて「顕彰」する「カミ」として祭られるようになったという。そのルーツは近世の義民や義士ら「横死者の墓」にあると持論を展開する。

「若い人になぜ戦争が起きたのかを考えてほしい」と今井さん。A5判、140頁。2400円。問い合わせは同書房(03・5684・0751)へ。

(時田菜月)